

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）について

1. スクミリンゴガイとは

① 貝の成長と寿命

- ・ふ化直後の稚貝は約 2mm で、真夏では 50～60 日で成貝（約 30mm）になります。
- ・条件が良ければ、ふ化後 50 日に産卵が見られるようになります。
- ・発育適温は水温 25℃～26℃、17℃以上で摂食活動がみられますが、22℃以下になると発育が遅くなります。



② 卵

- ・水面より高い位置の植物・コンクリート壁などに「卵塊」（卵のかたまり）が生み付けられます。
- ・卵塊は、産卵直後は鮮やかな赤色ですが、次第にピンク～灰白色に変わります。卵塊には直径 2mm 程度の卵が数十～数百個ほど含まれています。
- ・ふ化までの期間は、25℃の場合で約 2 週間です。（自然条件では 1 週間～5 週間）
- ・ふ化率はあまり高くなく、すべての卵がふ化するものもあれば、ふ化に至らない卵塊も多くあります。

③ 環境耐性

- ・もともと南米原産で寒さには弱いのですが、その中でも、中貝（殻高 10～25mm）の大きさのものが寒さに最も強く越冬率が高いです。小貝（殻高 10mm 以下）・大貝（同 25mm 以上）は冬の寒さに比較的弱いようです。

④ 食性

- ・植物質のもの、特に柔らかい草を好むようです。水田の中ではイネ以外の植物が少ないため、イネを摂食します。特に深水管理の水田や田植直後～7 葉期までのイネが被害に遭いやすくなります。

2. スクミリンゴガイの防除方法

① 耕種的防除

《イネの食害防止》

- ・田の水深を 3cm 以下の浅水にすると貝が活動できず、あまり食害されません。貝が活動しはじめたら、浅水管理を行いましょう。

→ 田面の高い部分が水面上に出ると除草剤の効果が劣るので、代かきはていねいに行い、田面を均平にしましょう。

- ・貝は深いところに集まる習性があります。水口などに深い場所を作るとそこに集まるため、それを捕殺します。

《貝の密度を低下させる》

- ・冬期のロータリー耕により傷ついた貝が死亡し、また寒風にさらされた貝は凍死します。

→ 土の硬い時期（収穫直後）のロータリー耕が最も殺貝効果が高いようです。越冬貝は深さ 6cm までにほとんどが存在しますので、耕うん深さをやや浅めにし、細かく起こす（速度を遅くロータリー回転を速く）と効果が上がります。

- ・ほ場や用水路・排水路の貝や卵塊を定期的・組織的に捕殺しましょう。

→ 産卵直後の卵は水中に落とすとふ化できなくなります。産卵後時間が経過した卵塊は潰す方が確実です。特に水田内では落としたりした卵塊を捕食する天敵がいないため、潰すようにしてください。

→ 貝及び卵は素手で触らないようにしましょう。

《ほ場・水路への侵入防止》

- ・目合 9mm 以下の網を侵入口（ほ場の水口や水尻、水路の上流など）に張りましょう。

②薬剤・資材防除（水田内のみ）

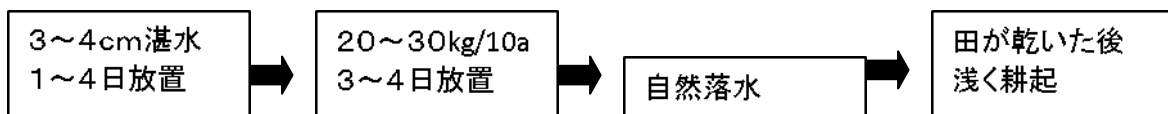
- ・スクミリンゴガイに登録のある資材を散布する。

→ 田植え直後から 7 葉期までのイネは食害を受けやすくなります。

→ 薬剤散布は湛水状態を保ち、ほ場外に田面水が流出しないよう注意してください。

| スクミリンゴガイに登録のある資材 | | | | | |
|------------------|---------|---------------|---------------|----------|------|
| 資材名 | メーカー | 使用量 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 |
| スクミン | サンケイ化学 | 1～4kg/10a | 湛水散布 | 収穫60日前まで | 2回以内 |
| スクミンベイト3 | OATアグリオ | 2～4kg/10a | 湛水散布(ラジコンヘリ可) | 発生時 | — |
| スクミハンター | 日本化薬 | 1～2kg/10a | 落水散布 | 収穫45日前まで | 4回以内 |
| じゃんぼタニシくん | 住友化学 | 1～2kg/10a | 湛水散布 | 収穫60日前まで | 2回以内 |
| キタジnP粒剤 | クミアイ化学 | 3～5kg/10a | 湛水散布 | 本田初期 | 2回以内 |
| パダン粒剤4 | 協友アグリ | 4kg | 湛水散布 | 収穫30日前まで | 6回以内 |
| メタレックスRG粒剤 | 日本農薬 | 0.7～1.4kg/10a | 湛水散布(ラジコンヘリ可) | 収穫90日前まで | 2回以内 |

(石灰窒素による方法：収穫後処理)



(田植え前防除)

